

# メイタガレイの標本船調査

野 沢 正 俊

本県におけるメイタガレイは、95%以上小型底曳網で漁獲されており、次いで刺網、2そう曳底曳網の順である。近年ヒラメと並んで経済価値が高まり、小型底曳網の主対象魚種となっている。

ここでは、操業実態及び資源量推定のための資料を得る目的で標本船調査を実施したので、その結果を報告する。

## 材 料 と 方 法

昭和53年4月から54年3月まで賀露漁協に所属する小型底曳船5隻に操業日誌の記入を依頼した。標本船選出に当っては、メイタガレイを主対象として操業し、県下でその漁獲量が多く操業技術が高度であり、年間操業（禁漁期間を除く）を実施している船を選んだ。禁漁期間中（4～5月）の資料は、試験船第2鳥取丸（FRP 17.84トン 160馬力）で実施した小型底曳網の資料を充当した。

メイタガレイの銘柄区分は、大（全長20cm以上）、中（10～20cm）、小（10cm以下）の3段階とした。また、標本船の漁獲したメイタガレイについて、体長（B.L）を測定した。

## 結 果 及 び 考 察

標本船の操業記録から漁場の月別の動きを図1、表1で見ると、50m以深が多く水深130mに及んでいる。とくに操業の中心は夏期6～9月で沖合域の操業が多く水深70～120mとなっている。秋期は10～11月にイカ類、ヒラメの来遊接岸により転換操業する船もみられ、日誌の記入はまばらであるが、12月以降水深25～70mと接岸し浅海域を操業している。銘柄別で見ると、大（T.L 20cm以上）は春期4～5月に34～41%で年間の最高を示し、冬期は最低を示している。中（T.L 10～20cm）は、小型底曳船の主対象銘柄で12月は18%と最低であるが、他の月では20～47%を示し、とくに7月及び2～3月は40%以上を示している。小（T.L 10cm以下）は4月以降33%から月を追って増加し、12月に81%と最高を示し漸時減少している。

メイタガレイの生息域をみると、1才未満（110%以下）は水深50m以浅の中細砂の底質から、2才（170%）になると水深75～100mの粗中砂、3才（210%）は100m以深のシルト混りとなり、発育段階により生息域を沖合に拡げて行くが、当海域では主として2才以上が小型底曳網で漁獲されている。また稚魚段階では30m以浅に多く、夏期に徐々に沖合化している。

漁業者は、出荷の際表2によりバケメイタとホンメイタに区分しているが、聞きとりによると前者は水

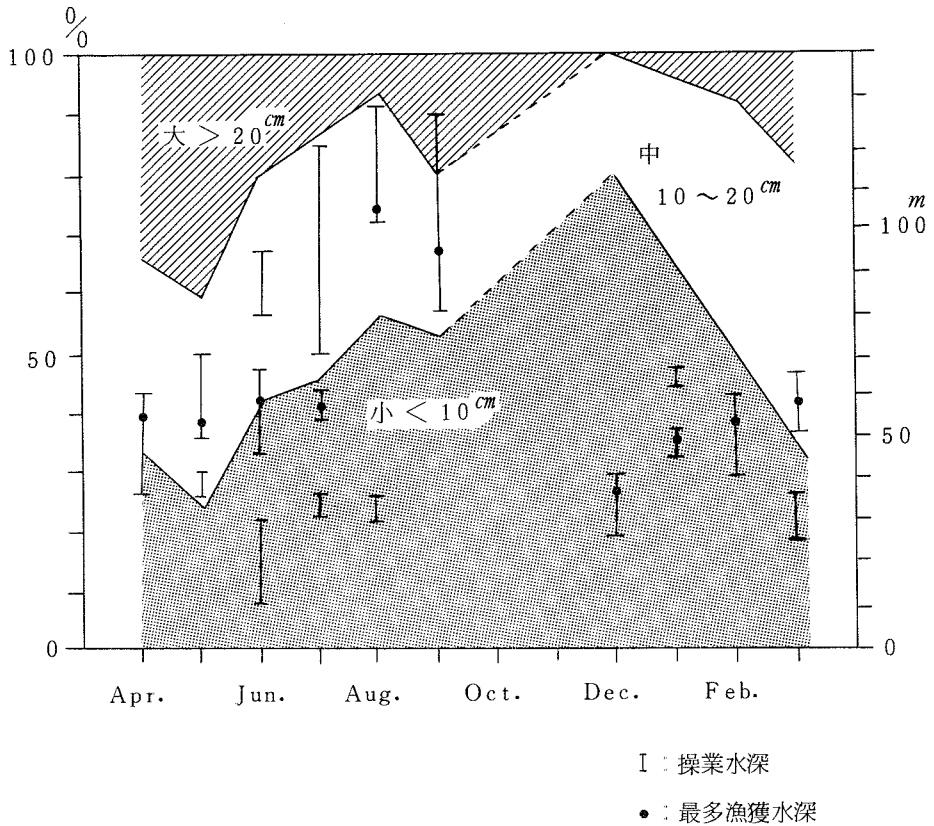


図1 操業水深と銘柄別組成

深70~120m(主として90~105m)で沖合まで生息域を拡大し、後者は水深60~80m(主として50~70m)で浅い方に生息する傾向がみられ、瀬・礁付近にとくに多く生息している。また群は10月以降分散する傾向がみられる。

体長組成(B.L)を図2でみると、B.L 2~24cmの広い範囲に分布し、経時的にはモードは、4月4~5cm、13~14cm、5月7~8cm、6月9~11cm、14~16cm、7月10~12cm、14~16cm、8月6~9cm、14~16cm、9月9~10cm、10月以降10~12cm、1月11~12cm、2・3月12~13cmのモードがみられる。また8月まで可成り判然としていた群は、10月以降見られず、小型群の一群となっているが、沖合域への操業がないため出現しなかったのであろう。しかし標本船の操業日誌の銘柄別漁獲には「大」のものもあるので、サンプリングによる偏りとも考えられる。

表1 メイタガレイ月別水深別銘柄別組成(%)

月・銘柄 水深(m)	6月			7月			8月			9月			10月		
	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小
10		1.0	0.4												
15		0.1	2.3	1.0											
20			3.0	1.3											
25	1.1	0.3	3.5	1.9											
30	9.8	4.8	31.2	17.2	0.2	0.3	18.6	8.6	2.0	7.4	40.2	25.3			
35															
40	2.2	0.5	0.1	0.8											
45															
50	1.6	1.3	0.5	1.0											
55	35.4	8.1	18.2	18.6	19.1	24.0	7.9	16.1							
60	46.4	82.6	35.5	54.3	15.3	19.3	6.2	12.8							
65	0.5	0.5	2.0	1.1											
70					0.2	0.1	0.1	0.1							
75					1.1	0.4	0.6								
80	1.0	0.5	0.4	0.6	8.4	9.4	15.9	12.2					9.0	8.8	5.5
85	0.4	0.1	0.4	0.3	6.5	12.6	14.9	12.8					11.7	8.8	5.5
90	1.0	0.7	1.2	1.0	5.6	5.4	3.7	4.6					15.3	8.0	9.2
95	0.2	0.1	0.1	0.1	8.5	5.8	4.3	5.5					18.0	3.6	31.5
100					10.0	6.0	7.4	7.2	6.4	6.4	4.6	5.4	4.5	16.8	8.8
105					9.1	7.4	9.9	8.7	12.5	38.9	7.7	19.5	10.8	21.9	16.5
110					10.9	5.3	6.6	6.6	21.0	20.8	14.5	17.3	16.2	16.8	8.4
115					1.4	0.8	0.8	0.9	37.9	13.1	17.6	17.5	14.4	8.0	9.2
120					4.5	1.9	2.6	2.6	15.9	11.6	13.2	12.8	5.1	3.7	3.3
125									4.0	0.9	1.8	1.6	2.2	1.8	1.5
130									0.4	0.1	0.2				
135															
140															
145															
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	22.4	34.6	42.8	100	13.2	41.4	45.2	100	7.6	36.5	55.8	100	21.3	26.3	52.4

月 水 深 (m)	11月			12月			1月			2月			3月		
	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小
10															
15															
20															
25				19.2	24.1	23.1							3.5	1.3	1.3
30				7.6	18.7	16.6							22.8	21.1	44.2
35				7.6	9.8	9.4							12.9	7.8	4.7
40				65.3	47.3	50.7				10.7	18.7	13.8			7.6
45							24.5	21.5	22.4	8.0	4.6	5.7			
50							75.4	56.0	61.7	0.8	2.5	20.8	11.1	1.9	2.3
55										24.1	41.6	33.9	36.4	11.4	20.4
60										75.0	37.1	22.5	32.9	28.0	35.1
65									22.4	15.7				19.2	11.7
70															10.2
75															12.5
80															
85															
90															
95															
100															
105															
110															
115															
120															
125															
130															
135															
140															
145															
				100	100		100	100		100	100	100	100	100	100
				18.8	81.1	100	29.7	70.2	100	8.0	42.2	49.7	100	18.2	47.0
															100
															34.7
															100

表2 メイタガレイの選別基準（漁業者による）

	バケメイタ	ホンメイタ
表皮	斑点 剥離易 黒色系	紋様 剥離難 多彩色
体型	やや紡錘型	菱型
鮮度	急激低下	保持力大
単価	kg当り 210円位	kg当り 1,000円位

## 要 約

昭和53年4月から54年3月まで、賀露港小型底曳漁船によるメイタガレイ標本船調査を実施した。

1. 操業の中心は夏期6～9月で、水深70～120mである。
2. 銘柄別では大（T. L 20cm以上）は4～5月、中（T. L 10～20cm）は7月及び2～3月、小（T. L 10cm以下）は12月に最高出現を示す。
3. 1才未満（110%以下）は水深50m以浅、2才（170%）は水深75～100m、3才（210%）は水深100m以深に出現する傾向がみられる。
4. 体長組成（B. L）では、2～24cmの範囲で出現し、2群が認められる。

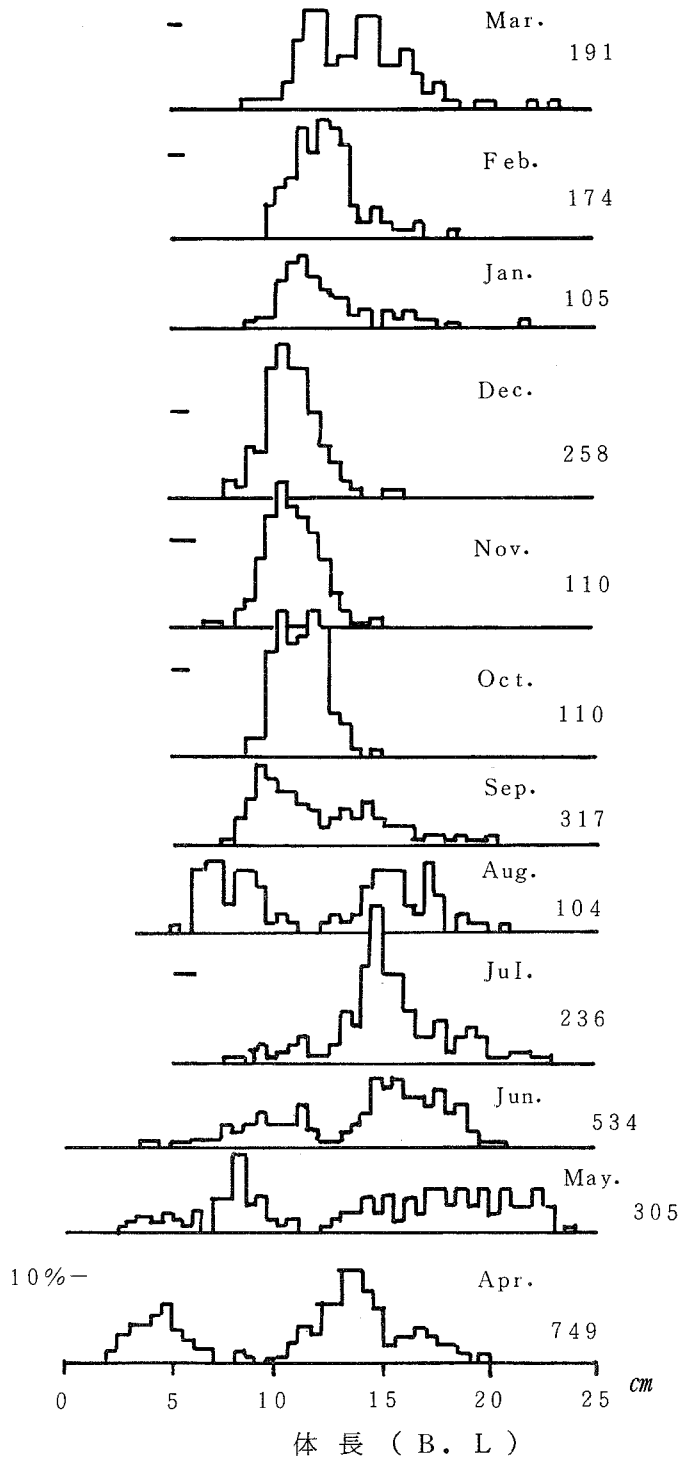


図2 体長組成 ( B. L )